

—症例報告—

New Wave Report

滴下式モキシデクチンで治療した
犬のミミヒゼンダニ症の3例小久保貴史¹⁾、高木志典²⁾、山田賢次³⁾1) アテナ動物病院 日の出
2) ファミリー動物病院
3) やまだ動物病院

Key Word

- 犬
- モキシデクチン
- ミミヒゼンダニ症
- 滴下式
- 安価

■要約

生後52日齢のトイ・プードル・雌、生後58日齢のミニチュアダックス・雄、生後48日齢のポメラニアン・雌の3頭が耳介部周辺の痒痒・発赤・耳垢が気になるということで来院した。3頭とも両側性に症状を呈していた。耳垢検査により、多数のミミヒゼンダニが検出されたので、ミミヒゼンダニ症と診断した。現在、イミダクロプリドとモキシデクチンの混合薬剤で、背部に滴下し毛包虫¹⁾、疥癬^{2) 3)}、ミミヒゼンダニ³⁾に効果がある製品・報告がある。モキシデクチン単剤のみで、犬の全身性毛包虫症の改善例⁴⁾の報告もあるが、今回は滴下式モキシデクチンのみをミミヒゼンダニ症例に1回滴下したところ、3頭ともミミヒゼンダニの消滅、痒痒、発赤等の改善がみられた。本法は、投薬が約1カ月に1回という手軽さ、簡便性、合剤では海外で適応症を取得している点などより、ミミヒゼンダニ症の治療・予防の有効的な手段であると考えられる。また、既存の治療方法と比較しても、薬剤価格面での大きな差があるのも特徴のひとつである。

■はじめに

犬のミミヒゼンダニ症は、臨床の現場で遭遇する病気^{5) 6)}のひとつで耳介部周辺に強い痒痒感を呈し、また他の動物種においては、猫⁷⁻¹¹⁾、ウサギ¹²⁻¹⁴⁾、フェレット¹⁵⁾、等においても耳ダニの報告例がある。2000年にNadia Pageらが、滴下式イベルメクチン¹⁶⁾をミミヒゼンダニ症の猫に、今回の1/10の薬用量500 μg/kgを滴下し治療した症例、2005年Ulutas Bらが、モキシデクチンと同じマクロサイクリック・ラクトン系の滴下式エピノメクチン¹⁷⁾でウサギの耳ダニ症を治療した症例等の報告がある。現在、行われている治療方法としては、Selamectin^{9) 10) 18)}

の滴下、フィプロニル+S-メトプレンの点耳、チアベンダゾール¹⁹⁾の点耳、0.05%ピレトリンの点耳、イベルメクチンの点耳・注射等があり、海外においては、10%イミダクロプリド+2.5%モキシデクチンの混合滴下式薬剤(Advocate[®], Bayer Health Care社)^{1) 3)}、チアベンダゾール含有の点耳薬製剤(Tresaderm[®], Merial社)、0.01%イベルメクチンの点耳薬製剤(Acarexx[®], IDEXX社)、0.1%ミルベマイシンの点耳薬製剤(Milbemite[®], Novartis社)、0.15%ピレトリンの点耳薬製剤(Otomite[®] Plus, Virbac社)等がすでに発売されている。現状の問題点は、薬剤の価格、点耳時の保定、注射時の保定、痛み等が挙げられる。そこで今回、滴下式のモキシデクチンをミミヒゼンダニがみられた3頭に対して5 mg/kg滴下して治療を試み、完治したのでその概要を報告する。

■モキシデクチンとは

モキシデクチン²⁰⁻²²⁾とは、イベルメクチンと同じ系統のマクロサイクリック・ラクトン系に分類される薬剤であり、犬・牛・馬²³⁾等で使用されている薬剤である。国内においては、犬用では、モキシデック[®]錠²⁴⁾(発売元：共立製薬(株))があり犬フィラリア症予防剤、牛用では、滴下式としてサイデクチン[®]ポアオン[®]²⁵⁾(発売元：共立製薬(株))があり牛の内・外部寄生虫駆除剤として使用されている。牛のイベルメクチン製剤²⁶⁾と比較し優れている点としては、投与後、糞便を介して速やかに排泄・分解され環境に優しい点²⁷⁾、油性基剤なので雨でも投薬できる点、オステルターグ胃虫、牛肺虫においては、オステルターグ胃虫で2週間長い35日間、牛肺虫で42日間効果が持続する点などが挙げられる。理論上は、ジェネリック製品が発売されている同じマクロサイクリック・ラクトン系のイベルメクチンでも同等の効果が、より経済的に得られると思われるが、イミダクロプリドとの合剤がすでに海外で発売されているため、



図1 52日齢、トイ・プードル、雌



図2 症例1の耳垢より検出された耳ダニ



図3 58日齢、ミニチュア・ダックスフンド、雄



図4 症例2のミミヒゼンダニ鏡検像

今回はモキシデクチンを使用した。今回紹介する3症例とも、2006年Dowling²¹⁾が報告しているMDR-1遺伝子の該当犬種ではないため、MDR-1遺伝子型判定のための検査は行っていない。

■症例1

52日齢、トイ・プードル、雌(図1)

主訴：痒痒感、紅斑、耳垢が多い

既往症：特になし

予防歴：混合ワクチン

生活環境：室内

食事：市販のフード

■身体検査所見

体重：950g

所見：耳垢より耳ダニが検出された(図2)

診断：ミミヒゼンダニ症

■治療と経過

滴下式モキシデクチンを第0病日に5 mg/kg滴下して、第7病日、第14病日、第28病日に患部病変を観察した。第7病日には、成虫が顕微鏡上すべて死滅し、第14病日、第28病日とも、ミミヒゼンダニは認められず、痒痒、発赤等の改善がみられ、完治した。